

山田町の歴史について

五年B組 長田大樹

一 調べようと思った動機

おじいちゃんやおばあちゃんがよく昔の話をするのでぼくの住んでいる山田町の昔はいったいどんなだったのだろうと思います。山田町の歴史をさがってみようと思いました。

二 調べた方法

はじめおじいちゃんにむかしのことを聞きました。それから家にあった本「三重県風土記」や他にいろいろさがしてみたり、おじいちゃんの子供のころ調べたという資料も見ていろいろ調べました。

三、調べたこと

— 七世紀 — 明治維新 —

西暦 年号

できごと

1565 5 1577	1489 5 1491	延徳年間	天正五年 永祿八年	天白宗円通院創建 (暁覚寺)	足利義輝の家臣、矢田監物が小山田城に居住。彼は天正五年瀧川一益に破れて、この村を脱出。後豊臣秀吉の軍に従って天正十八年小田原で戦死。この頃、小山田村は二つに分れた。上の村を「小山」、下の村を「山田」といった。ただし当時の「山田」は今の山田の西の方「旧垣戸」という所であった。
1326 5 1328	1185 5 1189	正平二十四年 九月	延元二年	伊勢国司北畠頭能(親房の子)の所領となる。	足利義満の命を受けた美濃の土岐頼康の侵入を受け、それに対抗するため、北畠頭能は各地に城砦を築かせた。この時、小山田にも城砦がつくられ、川嶋宮内少輔という人が二百余人の兵を従えてたてこもった。
1326 5 1328	1185 5 1189	嘉暦元徳	文治年間	元徳二年秋山城主後藤助光の所領となる。	大江広元の所領となる。
810 5 823	673 5 686	弘仁年間	保元年間	坂上田村麿呂の支配下にある	伊藤景綱の支配下にある
673 5 686	天武天皇	三宅連石 <small>ムラジ</small> の支配下にある (伊勢国司として就任していた人物)			

1578

天正六年

矢田監物退去後 神戸城主 織田信孝の所領となる
その家臣 田中兵部が支配し その後 荒木藤左衛門
が支配した。

1583

天正十一年

織田信孝の弟 ^{シカツ} 信雄が神戸城主となり、その
家臣 天野周防守が支配した。

1584

天正十二年
四月

織田信雄が豊臣秀吉に討たれ 小山田村も
豊臣家の所領となる。

1587

5

天正十五年
5十九年

桑名城主 一柳右近一助の支配となる

1591

5

慶長五年
天正十九年

桑名城主 氏家内膳の支配下となる

徳川家康の所領となり 家臣 水谷九郎左エ門
に支配される

1601

慶長六年

^{カツヒサ} 土方雄久の所領となる

1605

慶長十年

^{カツヒサ} 土方雄久の子 ^{カツカシ} 土方雄氏が 菰野城主 となって
以来 小山田村は 代々 菰野城主 土方氏の所領と
なる。 土方雄氏の代より 山田には 東西二人の
庄屋を置いて 村の政治を行わせた。
東庄屋の初めは 平尾半兵衛 西庄屋は 平尾
重兵衛で 小山には 別に 一人 庄屋を置いた。

西番 年号 主 西由国 東由国

1772
5
1735
天明2年
天保6年

土方義苗
長田幸三郎
長田文作
長田治郎吉
長田治郎吉

山田村に誹謗流行し、神宮廟立本堂を中心に出合ふられた。又神宮廟立本堂清秋も誹謗を運んで親しくする者あり。文政八年(1825)領内各村諸事依約十年堅く守るべしと通達があった。文政十三年(1830)七月廿日大地震あり。百中ゆたか山田では実空只なし。また切支丹宗門げんじゅう取し手月の通達あり。

1735
5
1838
天保6年
天保9年

土方雄興
長閑太
長昇治

1738
5
1858
天保9年
安政5年

土方雄嘉
長田幸吉
長田源英衛

安政元年(1848)六月十日夜大地震あり。由修寺の本堂が大半西に傾く。民家のほうかいが多く、圧死者九人あり。また法源寺は庫裡本堂ともたたおれてつぶれた。

1758
5
1869
安政5年
明治2年

土方雄永
長田幸吉
長田有吉

明治二年七月十六日
土方雄永 版籍を奉還
七月「菰野藩」が廃止され「菰野県」が置かれた。
十一月「菰野県」が廃止され「三重県」が置かれた。

1871
1870
明治4年
明治3年

これより「山田」は「三重県下第一大区四之小区山田村」と呼ばれることとなり、四之小区の役所は入王子におかれた。またこの年に村民の戸籍が作られた。また、初代の戸長(村長)に長田敬治郎、副戸長に長田有吉が命じられた。

1873
明治6年

六月 法源寺は廃仏(又)釈にあり。廢寺となる。本草の釈迦像は脱髮(又)髻像は安性寺がある。また本堂は波木の了信寺に売り払う。今の了信寺の本堂がそれである。

四

ギン問に思ったこと

一八五四年に大地震があり安性寺の本堂が西側に傾き圧死者も九人 出たとゆう。そんな大地震はいつたい震源地はどこで震度はいくつだったのだろうなあと思った。いま現在大きな安性寺がかたむくなんて考えられない気がする。現在伊豆の方で何度も何度も地震がおきているというけれども、ずいぶんとたいへんなことだなあと思う。しかし、そんな昔には震度を計る機械というものはあまりなかったのだろうか。その計器がないから計れないかもしれないな。

そんな時代にぼくが生まれていなくて良かったと思う。

また、一六七九年にぼくの友だちの家の暁覚寺が教覚寺という名前に変わりました。一七一八年にもとの暁覚寺によびなが変わったというのはどんな意味があったのだろうか。

何故そのように変える必要があったのか。と不思議に思った自分の住んでいる町についてのことだ。いまぼくの住んでいるみじかなこととしてとても興味^ねがわきふらふらと思うこともたくさんあってへーと思うこともいっぱいあった。

五、最後に

思っていた以上に、時間がかかってしまったので、四のぎ問点と、明治以_こうから現在までの山田町の、移りかわりについては、来年の自由研究でもういちど調べてみたいと思います。

百年くらい前のことについてなので、今いる年よりの人にきいたり、センターで調べたりしてみようと思っています。

きれいな家で、よくまとのアれましたね
来年ぜひかんぽでほしと思ひます。